

第 209 回  
定例探鳥会

日時：2004 年 5 月 9 日 (日) 天候：曇りのち小雨  
コース：高来神社 浅間山 地獄沢 亀堀沢 高来神社

集合時間前から神社の上空をハシボソガラスとハシブトガラスが入り乱れて飛び回り、大騒ぎをしています。タカがいるのかと探しましたが見つかりません。種族間の争いだったのでしょうか？繁殖の季節を迎えたためか林の中は非常に静かで、ときどきメジロ、シジュウカラ、ヤマガラのさえずりが聞こえてきます。ところがキビタキのさえずりだけは遠く近くのいろいろな方向から聞こえてきます。到着したばかりでテリトリーが決まっていけないので、懸命に張り合っているのでしょうか？近くで聞こえたときに探したのですが、繁った新緑の葉にさえぎられてなかなか見つけることができません。

浅間山まで来たところで小雨が降り始めました。今日はここまでということで、どうせ戻るなら久しぶりに地獄沢を回っていこうということになりました。こちらの沢でもキビタキの合唱が周囲から聞こえてきます。途中で2つのグループに離れてしまいましたが、後ろを歩いていたグループはスコープできれいな をしっかりと見ることができました。前の方のグループは沢の終点辺りでオオルリをチラッと見ることができました。

気温 20 、湿度が高く少し汗をかきましたが、林の中では小雨も気にならず、キビタキやオオルリのさえずりを聞きながら新緑の中を歩くのは、とても気持ちがいいものです。

参加者		参加人数 29 名 + 1 頭 (敬称略)		
1. 下倉 紘一	2. 鈴木 逸子	3. 山田 文則	4. 吉田 宣子	5. 瀬尾 隆
6. 山下 勝司	7. 阿部 純一	8. 紺 龍彦	9. 古賀 勝秋	10. 八木 正
11. 大矢 秋代	12. 国友 昭男	13. 加藤 卓也	14. 沢田 興三	15. 木田 ハマ
16. 関谷 恵	17. 関谷 昂	18. 片倉 暹	19. 伊藤 武雄	20. 吉尾 孝
21. 小谷 茂雄	22. 岩沢 晃	23. 岩沢 登茂子	24. 岩沢トレーシー (探鳥犬)	
25. (田端 裕)	26. (西ヶ谷 修一)	27. (金子 典芳)	28. (内山 規矩雄)	29. (斎藤 常實)
30. (岩佐 昌夫)				

見聞きした鳥		種類数 23 種 (ドバトを含む)		
1. キジバト	2. アオバト	3. ドバト	4. ヒメアマツバメ	5. コゲラ
6. アオゲラ	7. ツバメ	8. イワツバメ	9. ヒヨドリ	10. ヤブサメ
11. ウグイス	12. センダイムシクイ	13. キビタキ	14. オオルリ	15. シジュウカラ
16. ヤマガラ	17. メジロ	18. カワラヒワ	19. シメ	20. イカル
21. スズメ	22. ハシボソガラス	23. ハシブトガラス		

# 「アオバトのふしぎ」を出版した【アオバト探検隊のふしぎ】

西ヶ谷 修一

高麗山・花水川探鳥会のことを「こまたん」と呼ぶようになったのは、1992年に「大磯町照ヶ崎におけるアオバトの生態」を刊行するために、著者の名前を何にしようかと考えたとき、高麗山・花水川探鳥会から「こまたん」がいいのではないかと誰からともなく言い出されたからである。

「こまたん」にはご存じのように、会長もいなければ規則や会費もない。何もなし。あるとしたら”何にでも楽しくなければならぬ”がみんなの口癖になっている。楽しくなければ誰もやろうとはしない。何か調べたいことが出てきたときは、言い出した人がリーダーシップをとり、それに同調する人が協力し始める。こういうことを、我々は「イーターシップ」と言っている。花水川の野鳥のカウント、サギの調査、早朝早くの地元の山や川、海などのカウント、市民探鳥会、水曜探鳥会等。それぞれそうした考え方で出来ている。もちろん会議を開いて方針や分担などは決めない。その人が勝手にやっているのである。そう、いい意味でいい加減なのである。

このいい加減な「こまたん」が結束することがある。それは時々行われるいろいろな行事の反省会である。これだけは何故かしっかりみんな集まるのである。そう反省会である。もちろん会議室や改まった場所ではない。「飲めや！歌へや！」の反省会である（“歌へや”はなかったか）。たまに歌を歌う人やハーモニカをやる人はいたが、あまり聞いている人はいないようだ。何故かよく飲む人が「こまたん」には集まる。そうそう飲めない人もいたのだ。でも絶滅危惧種に追いやられている（飲まない人申し訳ない。貴重種です）。

しかしながら、この馬鹿騒ぎの飲み会の中から、不思議にいいアイデアや発想が生まれ、今までのいろいろな取り組みに役立っている。この本の土台になっている「アオバト探検隊」の隊長に斎藤さんが選ばれたのも、そんな中である。その後の隊長の活躍はすさまじいものがあった。鬼気迫るものであった。我々はその奴隷（差別用語かな）として、隊長が白と言えば、赤でも白であるごとく命令に従ったのである。この隊長ときどき、妙に変な優しさをみせる。そこどころりと騙されるのである。気がついてみると、隊長の思う通りになっているのである。でもこの隊長がいなかったらこの本は生まれなかったに違いない。いろいろ書きたいが探検隊のことは紙面の都合上次回に譲る。

この「こまたん」の人たちは、頑固に平塚・大磯から離れないのである。まさに、井の中の蛙である。他の探鳥地やシギ・チなどにはあまり興味を示さない。たまに見に行くこともあるが、まず外に出ない。この辺の野鳥で十分満足しているのである。この普通の鳥の生態を追っていることがいかに面白いかを知ってしまったのである。こうなると、珍鳥もへたくれもない。普通の鳥を調べることが、いかに奥深いか、そして難しいか、そのことを調べるのがぞくぞくするほど楽しいかを身をもって感じてしまうようになってしまったのである。

このおじさんたちもそろそろ年である。徐々に仕事をリタイヤしている。悩みは若い人がなかなか育たないことである。どうやったら若い人や女性が増えてくるのか、もっかの課題である。高齢化社会が原因だとは思うのだが、それだけではない。「こまたん」のおじさんたち（失礼おばさんもいた）が異常に元気がいいのである。なかなか引退宣言をしない。困ったものである。探鳥会では、「初心者にやさしく」を通り越して、無理矢理教え込むというスタイルは今も変わらない。必要なお節介を信念として持っているのである。自負するならばこのお節介に助かった人は多いのではないと思う。とにかくやかましい探鳥会である。このお節介の中心はやはり我が隊長、斎藤さんである。

高麗山定例探鳥会はこの西ヶ谷がつくったのだが、とっくに乗っ取られたのである。これはほっとすると同時にちょっとさみしい気もする今日この頃である。老兵は死なずただ消えるのみである（ちょっとオーバーかな）。でも何となく作ったこの探鳥会、「こまたん」のカラーがいつのまにかいい意味で出来てきてよかったと自画自賛している。まだまだ続くこの会である。

最後に、この困った人たち、アオバトにとりつかれた、「照ヶ崎の懲りない面々」をいつまでもみすてず暖かい目を持って接して頂けるようお願いして原稿を閉じる。

追記

この原稿のすべての責任は文責の西ヶ谷にある。苦情は本人まで、あくまで「こまたん」には責任はない。

## 照ヶ崎連続アオバト観察会

「アオバトのふしぎ」の発行を記念して5月～8月の最終日曜日に「照ヶ崎連続アオバト観察会」が開催されることになりました。その第1回が5月30日に行われました。天気予報では降水確率60～70%と梅雨入りの雨を覚悟していましたが、見事によい方に外れて朝から快晴となり、梅雨明けを思わせるような暑い日となりました。アオバトの飛来も順調で、早くも午前4時40分ごろには約140羽の大きな群れが飛来しました。午前10時の終了までに100羽を超える大群が何度も岩礁の上を飛翔し、見ている人から歓声があがりました。今シーズン最大の飛来数だったようです。「アオバトのふしぎ」を読んできた人や田端さんが出演したNHKのラジオタ刊を聞いた人もいて、観察会に参加した人は約90名を数えました。金子さんと斎藤さんによる詳しい解説と質疑応答や田端さんによるさりげない本の宣伝にも参加者の注目が集まっています。大磯町長の来場や湘南ケーブルネットワークの取材(情報カフェ!湘南館で放送)などもあり、大盛況のうちに熱く燃えた第1回が終了しました。

これからの予定は6月27日、7月25日、8月29日の6時～9時です。さらにヒートアップして皆様をお待ちしています。



### 【お知らせ】

#### 展示会

こまたんのメンバーが撮影した写真やアオバトに関する資料・データなどが下記の3会場で展示されています。展示が重なり作品の振り分けが大変でしたが、いずれの会場も展示には経験豊富なこまたんならではの見ごたえのあるものとなっています。ぜひ足を運んでご覧になってください。

・ ひらつか市民活動センター(平塚市八重咲町) 5月25日～6月20日

・ 平塚市リサイクルプラザ(平塚市四之宮) 6月1日～6月30日

「ひらつか環境展」への参加です。新設されたりサイクルプラザ(愛称くるりん)2階の情報発信コーナーで、他の7団体と一緒に展示会です。「アオバトのふしぎ」の発行と照ヶ崎連続アオバト観察会の宣伝を兼ねて、アオバトに関する内容です。

・ 神奈川県自然環境保全センター(厚木市七沢) 6月1日～終了日未定

#### 定例カウント調査

吉沢 & 土屋 7月3日(第1土曜日)

鷹取山 7月10日(第2土曜日)

午前6時に、高麗ハイツとなりの駐車場(青空市場)に集合。午前中に解散。雨天中止

#### 問い合わせ・連絡先

岩佐 昌夫 0463-55-6142 内山 規矩雄 0463-33-4322 金子 典芳 0463-32-5583

# 鳥報

こまたんメンバーのフィールドでの観察記録から主なものをご紹介します。

## アオバト情報

### 照ヶ崎への飛来情報

日付	観察時間		天気	飛来回数	飛来数				瞬間最大	備考
	開始	終了				不明	合計			
5/9	6:00	10:00		8	7	6	15	28	10	アズキ色の面積が小さい個体、大雨覆いの短い個体が観察されている。
5/16	8:40	11:30		13	3	18	62	83	28	
5/23	6:00	11:00		22	36	58	364	458	70	
5/29	12:30	13:00		6	-	-	-	-	22	
6/6	6:00	10:00		41	-	-	-	1576	120+	

### その他の場所でのアオバト情報

京都府立植物園 : 3/25 ~ 4/11、1 ~ 20 羽の群れが地上に降りてドングリを丸呑みにする

京都御苑 : 5/7、2 羽、サクラの木にとまり実を食べていた

国府津 : 5/23、ミカン畑で 10 羽および 15 羽の群れが飛ぶ、声も聞かれた

権現山(秦野市) : 5/25、1 羽が木にとまる、声も聞かれた

宮ヶ瀬湖 : 5/28、1 羽が虹の大橋を越えて、鳥屋方向へ飛ぶ

新潟県黒川村奥胎内 : 5/29、1 羽、キャンプ場付近で声を聞いた(標高約 600 m、堂平と同じような植生)

吉沢・土屋・鷹取山 : 非常に多くの記録があり、普通に観察されている

### その他の野鳥情報

サシバ : 5/7 土屋、1 羽が谷戸の電柱にとまり、ときどき地上に降りて採餌。その後も何回か観察されている

アオバズク : 5/7 高麗山の麓(北東側)、2 羽が TV アンテナにとまる

トウネン : 5/9 照ヶ崎、31 羽、岩場に降りる

ササゴイ : 5/12 花水川、2 羽が飛ぶ。約 1 週間前から観察されていた

フクロウ : 5/12 吉沢、1 羽が林の中を飛ぶ

セッカ : 5/18 遠藤原、1 羽が畑の上を鳴きながら飛ぶ

ツツドリ : 5/18 吉沢、1 羽、声が聞かれた

アマサギ : 5/23 照ヶ崎、19 羽、上空を西から東の方へ飛ぶ

ヤマセミ : 5/23 小倉橋 ~ 高田橋の間、1 羽が川の石にとまる

オオタカ : 5/25 吉沢、1 羽の声が聞かれた

トラツグミ : 5/25 境川、1 羽が大きな声で鳴いていた。飛び立つ姿がチラッと見えた

ホトトギス : 平塚市、大磯町、茅ヶ崎市、横浜市の各地で声が聞かれている(記録多数)

水辺の楽校探鳥会(5/15)の記録より

カワウ、メダイチドリ、ハマシギ、イソシギ、キアシシギ、コアシサシ、サシバ、ヒバリ、オオヨシキリ、セッカ、オナガ

次回の定例探鳥会は 2004 年 7 月 11 日(日)です。午前 7 時 30 分 高来神社に集合。

緑鳩(アオバト) 第 208 号 / 6 月号 発行所:こまたん

斎藤 常實 0467-51-3543

岩佐 昌夫 0463-55-6142

こまたんホームページアドレス <http://www.komatan.jp/> (アドレスが変更されました)

日本野鳥の会神奈川支部ホームページ <http://www.mmjp.or.jp/wbsj-k/>